# 北海道地方

名前

問1　北海道の道庁所在地である札幌周辺の地理的特徴と、地名の由来について述べた文として、最も適切なものはどれか。（2021年 熊本県公立入試 類似）

1. 広大な泥炭地が広がる石狩平野の沿岸部に位置し、地名は本州から移り住んだ開拓使の言葉に由来する。
2. 十勝川の流域に広がる十勝平野に位置し、地名は江戸時代の松前藩の役職名に由来する。
3. 大規模な火山灰地が広がる根釧台地に位置し、地名は明治時代に移り住んだ屯田兵の出身地に由来する。
4. 石狩川や豊平川の堆積作用によって形成された石狩平野に位置し、地名は先住民族であるアイヌの言葉に由来する。

問2　日本の小麦や小豆の生産割合に関する統計において、全国の約6割（61.8%）を占めて第1位となっており、第2位の福岡県（7.6%）や第3位の佐賀県（5.7%）を大きく引き離している都道府県はどこですか。（2025年 群馬県公立入試 類似）

1. 北海道
2. 新潟県
3. 秋田県
4. 鹿児島県

問3　十勝平野の畑作では、同じ土地で種類の異なる複数の作物を数年周期で順番に栽培する「輪作」が行われています。このような栽培方法をとる主な目的として、最も適切な理由を説明したものはどれですか。（2022年 和歌山県公立入試 類似）

1. 農機の稼働時間を減らすことで、大規模経営における燃料費などのコストを削減するため。
2. 北海道の短い夏において、複数の作物を同時に収穫して出荷作業の効率を上げるため。
3. 特定の作物を続けて作ることで発生する連作障害を防ぎ、土壌の栄養分を維持するため。
4. 年ごとの農作物の市場価格の変動に合わせて、最も収益の高い作物だけを育てるため。

問4　北海道地方と九州地方の工業出荷額の内訳を比較した際、北海道では製造品出荷額のうち食品工業が占める割合が最も高いのに対し、九州地方では自動車などの機械工業の割合が高いという特徴が見られます。北海道において、特に食品工業の割合が高くなっている理由として、最も適切な説明を選びなさい。（2016年 大分県公立入試 類似）

1. 広大な土地を活用して生産される農産物を原料として、現地で加工を行う工場が多いため
2. 最先端の技術を必要とする集積回路（IC）の工場が、空港や高速道路周辺に数多く建設されたため
3. 海外から輸入した石油などの原料を加工する臨海型の工業地帯が全国的に見て集中しているため
4. 豊富な森林資源を背景として、住宅用の木材や製紙・パルプの製造が製造品出荷額の半分以上を占めているため

問5　札幌市の中心部に見られる、道路が垂直と水平に規則正しく交差するように設計され、住宅地や商業地が正方形に近い区画で整理されている街路の形態を何と呼びますか。（2020年 島根県公立入試 類似）

1. 格子状の街路
2. 不規則な街路
3. 放射状の街路
4. 同心円状の街路

問6　夏の北海道の太平洋沿岸において、寒流の影響で湿った空気が冷やされることにより発生し、日照時間の減少や気温が上がりにくくなる原因となっている気象現象を何といいますか。（2025年 群馬県公立入試 類似）

1. やませ
2. 濃霧
3. 季節風
4. 線状降水帯

問7　かつての北海道中央部に広がる平野で見られた、低温のために枯れた植物が十分に分解されないまま積み重なってできた、排水の悪い湿地帯を何と呼びますか。（2022年 和歌山県公立入試 類似）

1. 泥炭地
2. シラス台地
3. カルスト地形
4. 干拓地

問8　2001年から2018年にかけての北海道の酪農に関する統計では、飼育戸数が9640戸から6140戸へと大幅に減少する一方で、生乳生産量は3640.7千tから3965.2千tへと増加しています。また、100頭以上の牛を飼育する戸数や搾乳ロボットの導入数も大きく伸びています。このような北海道の酪農で見られる変化の説明として、最も適切なものはどれですか。（2021年 熊本県公立入試 類似）

1. 労働力不足を補うために、経営規模の拡大や搾乳ロボットの導入による機械化が進んでいる。
2. 環境保護の観点から機械の使用を制限し、1戸あたりの飼育頭数を減らす取り組みが進んでいる。
3. 飼育戸数の減少に比例して全体の生産量も減少し、酪農から畑作への転換が進んでいる。
4. 乳製品の需要低下に合わせ、手作業を中心とした小規模な家族経営への転換が進んでいる。

問9　北海道東部の釧路市周辺には広大な湿地が広がっています。この地域の自然環境と農業について述べた文として正しいものはどれですか。（2021年 宮城県公立入試 類似）

1. 夏季に発生する霧の影響で気温が上がりにくいため、稲作よりも、冷涼な気候に適した酪農が盛んに行われている。
2. 冬に北西から吹く湿った季節風が山脈に突き当たり、世界有数の豪雪地帯となるため、冬の間の農業は行われない。
3. 年間を通じて温暖な対馬海流の影響を強く受けているため、冬でも雪がほとんど降らず、野菜の促成栽培が行われている。
4. 広大な湿地を干拓して大規模な水田地帯が作られており、石狩平野と並ぶ北海道有数の米の産地となっている。

問10　北海道における人口分布の変化について、1950年から2010年までの統計的な傾向を説明した文として正しいものはどれですか。なお、この期間において北海道全体の人口は約430万人から約551万人へ、札幌市の人口は約62万人（1960年）から約191万人へと推移しています。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. 札幌市の人口は1960年から2010年にかけて、北海道全体の人口増加分を補えないほど減少した。
2. 北海道全体の人口増加に比例して、道内すべての市町村の人口が均等に3倍以上になった。
3. 道内人口に占める札幌市の割合は、1960年から2010年にかけて一貫して減少傾向にある。
4. 北海道全体の人口が緩やかに増加する中で、札幌市の人口はそれを大きく上回るペースで増加した。

問11　北海道において、宿泊施設の延べ宿泊者数や温泉地数が全国的に見て極めて多い水準にある理由と、その観光業の特色について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。（2023年 福岡県公立入試 類似）

1. 歴史的な寺社仏閣が全国で最も多く、それらの伝統的建造物を宿泊施設として再利用する取り組みが全道で進んでいるため。
2. 冬季の積雪が厳しいため、観光の主力は夏場の避暑や農業体験に限定されており、季節による宿泊者数の変動が極めて大きい構造となっているため。
3. 火山帯に位置する地理的条件を活かした温泉地が各地にあり、広大な自然景観やパウダースノーなどの地域資源を求めて国内外から多くの観光客が訪れるため。
4. 首都圏からの距離が近いため、日帰りの観光客を主なターゲットとした小規模な宿泊施設が特定の都市に集中し、効率的な運営が行われているため。

問12　北海道には「稚内（わっかない）」や「室蘭（むろらん）」など、特徴的な響きを持つ地名が多く存在します。これらの地名は、北海道やその周辺諸島に古くから住み、独自の言語や文化を築いてきた先住民の言葉に由来しています。この人々の名称として正しいものを選びなさい。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. えみし
2. 防人
3. アイヌ
4. 屯田兵

# 答え合わせ・解説

| | | |
|---|---|---|
| 問1 | 答え 4<br>石狩川や豊平川の堆積作用によって形成された石狩平野に位置し、地名は先住民族であるアイヌの言葉に由来する。 | 札幌の市街地は、石狩川の支流である豊平川などが運んだ土砂が積もってできた石狩平野に位置しています。北海道にはアイヌ語を由来とする地名が多く、札幌（サッ・ポロ・ペッ）もその一つです。根釧台地は大規模な酪農、十勝平野は畑作が盛んな地域であり、札幌の位置する地形とは異なります。 |
| 問2 | 答え 1<br>北海道 | 涼しい気候と広大な土地を活かした畑作が非常に盛んな地域です。この都道府県は小麦や小豆だけでなく、じゃがいも（馬鈴薯）やてんさい（ビート）などでも全国1位の生産量を誇っており、日本の食料基地としての役割を担っています。選択肢にある新潟県や秋田県は米（稲作）、鹿児島県はサツマイモや畜産のシェアが高い県です。 |
| 問3 | 答え 3<br>特定の作物を続けて作ることで発生する連作障害を防ぎ、土壌の栄養分を維持するため。 | 同じ土地で毎年同じ作物を栽培し続けると、土壌の養分が偏ったり、病害虫が発生しやすくなったりする「連作障害」が起こります。十勝平野では、ジャガイモ、てんさい、豆類、小麦などの異なる作物を順番に植え替える「輪作」を行うことで、土壌の肥沃さを保ち、安定した収穫量を確保する工夫がなされています。 |
| 問4 | 答え 1<br>広大な土地を活用して生産される農産物を原料として、現地で加工を行う工場が多いため | 北海道は日本の食料基地とも呼ばれ、広大な大地から収穫されるジャガイモ、甜菜（てんさい）、乳畜産物などが豊富です。これら重量のある原料を鮮度が高いうちに加工したり、輸送効率を高めたりするために、産地の近くに工場を置く「原料指向型」の食品工業が発展しています。これに対し、九州地方では「シリコンアイランド」としての集積回路や、自動車などの機械工業が大きな割合を占めるという違いがあります。 |
| 問5 | 答え 1<br>格子状の街路 | 明治時代に設置された開拓使による都市計画において、札幌市の中心部には京都の街並みや北米の都市を参考にした道路網が築かれました。このように直角に交わる道路で構成された街画は、土地の管理を容易にし、計画的な都市開発を進める上での大きな特徴となっています。 |
| 問6 | 答え 2<br>濃霧 | 北から流れてくる寒流である千島海流（親潮）の上を、夏に南東から吹く暖かく湿った空気が通る際、海面付近で急激に冷やされることで水蒸気が水滴となり、霧が発生します。釧路市などの太平洋沿岸部では、この霧が太陽の光を遮るため、夏でも気温が上がりにくく、日照時間が短くなるという気候特性が見られます。 |
| 問7 | 答え 1<br>泥炭地 | 北海道の石狩平野などでは、寒冷な気候の影響で微生物による植物の分解が進まず、それらが堆積してスポンジ状の層を形成しました。この土地は「泥炭地」と呼ばれ、水分を過剰に含むためそのままでは農作物の栽培が困難な湿地となっていました。これに対し、鹿児島県などの九州南部で見られる火山灰が堆積した土地は「シラス台地」と呼ばれます。 |
| 問8 | 答え 1<br>労働力不足を補うために、経営規模の拡大や搾乳ロボットの導入による機械化が進んでいる。 | 北海道の酪農では、従事者の高齢化や後継者不足を背景に飼育戸数自体は減少していますが、1戸あたりの飼育頭数を増やす「経営規模の拡大」や、搾乳ロボットなどの最新設備を導入する「機械化」を進めることで、少ない人数でも効率的に生産できる体制が整えられています。その結果、戸数が減っても全体の生乳生産量は維持・増加する傾向にあります。 |
| 問9 | 答え 1<br>夏季に発生する霧の影響で気温が上がりにくいため、稲作よりも、冷涼な気候に適した酪農が盛んに行われている。 | 釧路湿原に代表される道東の太平洋側は、夏の季節風と寒流の影響による海霧で気温が上がらないため、米作りには適していません。そのため、この冷涼な気候を活かして、乳牛を飼育する酪農が大規模に行われています。選択肢にある「豪雪地帯」は主に日本海側の特徴であり、「温暖な海流」や「促成栽培」は宮崎県や高知県などの南日本の特徴です。 |
| 問10 | 答え 4<br>北海道全体の人口が緩やかに増加する中で、札幌市の人口はそれを大きく上回るペースで増加した。 | 数値データを確認すると、北海道全体では約1.3倍の緩やかな増加であるのに対し、札幌市は50年間で3倍以上に達しています。札幌市という一つの都市が、道全体の人口成長を牽引すると同時に、道内の他の地域から人口を吸収する形で拡大を続けてきたことが読み取れます。これが道内における人口集中の実態です。 |
| 問11 | 答え 3<br>火山帯に位置する地理的条件を活かした温泉地が各地にあり、広大な自然景観やパウダースノーなどの地域資源を求めて国内外から多くの観光客が訪れるため。 | 北海道には活発な火山活動に由来する温泉地が数多く存在します。これに加えて、国立公園に指定されるような広大な自然環境や、冬の質の高い雪といった独自の資源が観光の目玉となっています。これらが大規模な宿泊施設の整備と結びつき、高い延べ宿泊者数を維持する要因となっています。 |
| 問12 | 答え 3<br>アイヌ | 北海道の地名の多くは、先住民であるアイヌの人々が使用していた「アイヌ語」に由来しています。例えば「稚内」はアイヌ語で「冷たい水の出る川」を意味する言葉が語源となっており、自然の地形や特徴を反映した地名が各地に残されています。屯田兵は明治時代に北海道の開拓と北方の警備を兼ねて全国から送り込まれた兵士を指すため、先住民とは異なります。 |